

平成 23 年度

# 金沢市埋蔵文化財調査年報

平成 24 年 3 月

(2012 年)

金 沢 市

(金沢市埋蔵文化財センター)

#### (4) 学術調査の成果

##### A. 切山城跡 (加越国境城郭群と古道)

(遺跡番号 県：01390 市：112T)

所在地：金沢市桐山町地内

北緯 36° 36′ 02″

東経 136° 44′ 42″

調査面積：170㎡

種別：城館跡

主な時代：安土・桃山

担当：向井 主任主事



#### ■ 遺跡の概要

切山城跡の発掘調査は、「加越国境城郭群と古道詳細調査事業」の一環として実施している。

加越国境とは旧加賀国と旧越中国の国境を示し、概ね現在の石川県金沢市・津幡町と富山県小矢部市・南砺市の県境付近を指している。この国境越えには、北陸道の他にも複数の短距離で越中へ到達する脇街道と呼ばれる山越え道が良く利用されており、中世や近世にも使用されていた。現在それらは舗装道路や林道などに姿を変えながらも、多くが当時の道筋を踏襲している。

本能寺の変から2年後の天正12年(1584)、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康連合軍が織田信長亡き後の天下統一をめぐり争った「小牧・長久手の戦い」が勃発するが、それに連動して、秀吉方の前田利家と家康方の佐々成政は、加賀と越中の国境付近に対峙することとなり、加越国境付近の街道沿いには多くの山城が築造された。

天正13年8月の羽柴秀吉による越中出陣により佐々成政は降伏するが、この後に越中の西半分が前田利家の長男利長に与えられたことで、加越国境付近の緊張状態は解消され、城郭群は不要になったと考えられる。

加越国境付近の街道沿いに築かれた多くの山城の中でも、代表的な城跡である推定前田方の切山城と推定佐々方の松根城は、天下の覇権抗争の縮図となった利家と成政の対立を物語るもので、両城と共に城が築造される地理的要因となった小原越の実態を明らかにすることで史跡指定を目指している。そして、その戦乱の歴史舞台を未来に伝えることを目的としている。

切山城跡は金沢市桐山町と宮野町の町境に所在し、加賀と越中の国境近くに立地している。森下川と切山川、清水谷川に挟まれた標高139mの尾根頂部を中心に造成されており、国境付近や南方の森下川への眺望が良好である。城の南側を小原越が通過する。

近世の書上帳や地誌類には、不破彦三(前田家家臣)の城と記載されている。

南北250m、東西200mの規模を持ち、平坦面、切岸、堀切、横堀、竪堀、土塁、櫓台、虎口などから構成される山城跡である。主郭は南北約25m、東西約30mの不整形な平坦面で、城内に小原越を取り込んでいる。越中側に大横堀を設置しており、越中側からの侵攻を強く意識した構造と考えられる。現況遺構は16世紀後半と推定されている。

発掘調査は主郭、曲輪、櫓台、虎口、土塁、堀切、横堀、小原越もしくは横堀で実施している。

遺構は穴跡や焼土跡、溝跡、整地跡、盛土跡などが確認され、遺物は火縄銃の弾丸と考えられる鉛玉や土師器皿、粉引臼、砥石などが出土している。

主郭 (A) では穴と盛土を、主郭南端の推定櫓台箇所 (H) では穴と整地土、土塁盛土を検出し、整地土直上から鉛玉が出土している。

東側虎口 (C) では整地土と土塁盛土、門遺構の可能性ある礎石建物、門に伴う敷石の可能性ある集石遺構を検出し、土器片、金属片が出土している。主郭東側虎口付近の土塁 (J) では、土塁上で柵列もしくは塀の可能性ある穴や互層による土塁の盛土を検出した。主郭の西側虎口 (B) では土塁の盛土を検出した。主郭西側の外柵形虎口 (K) では、穴、溝、整地土を検出し、石臼が出土した。外柵形虎口から下に降りる斜面裾部 (L) で溝を検出した。

主郭北側の曲輪 (D) では穴と焼土、盛土 (1.5 m以上) を検出し、土器片が出土した。

城の西端を区切る堀切 (E) では地表面から約 70cm下で幅約 1.7 mの堀底を検出した。

城の東端を区切る横堀 (I) では、作業道脇の壁面を削り、幅約 3 m、深さ約 1.1 mの堀を検出した。

城の南端に残る小原越もしくは横堀 (M) では、地表面から約 50cm下で地盤と幅約 40cm、深さ約 30cmの溝を検出しており、横堀に設けられた防御施設を示す可能性が考えられるが、詳細不明である。

今回の調査で確認した整地土や盛土によって、城郭の築造内容の一端が判明した。また、門の可能性ある礎石建物や土塁上で検出した塀の可能性ある柱穴列によって、具体的な建造物が明らかになってきた。さらに、鉛玉はその出土状況から城跡が使用されていた時期のものと考えられるので、火縄銃が伝わった 16 世紀後半頃の年代が想定される。このことによって、従来城の形態から年代が想定されていたが、出土遺物からも年代を推定できるようになった。



調査区 J 土塁の断面



調査区 J 穴列 (柵列・塀か)

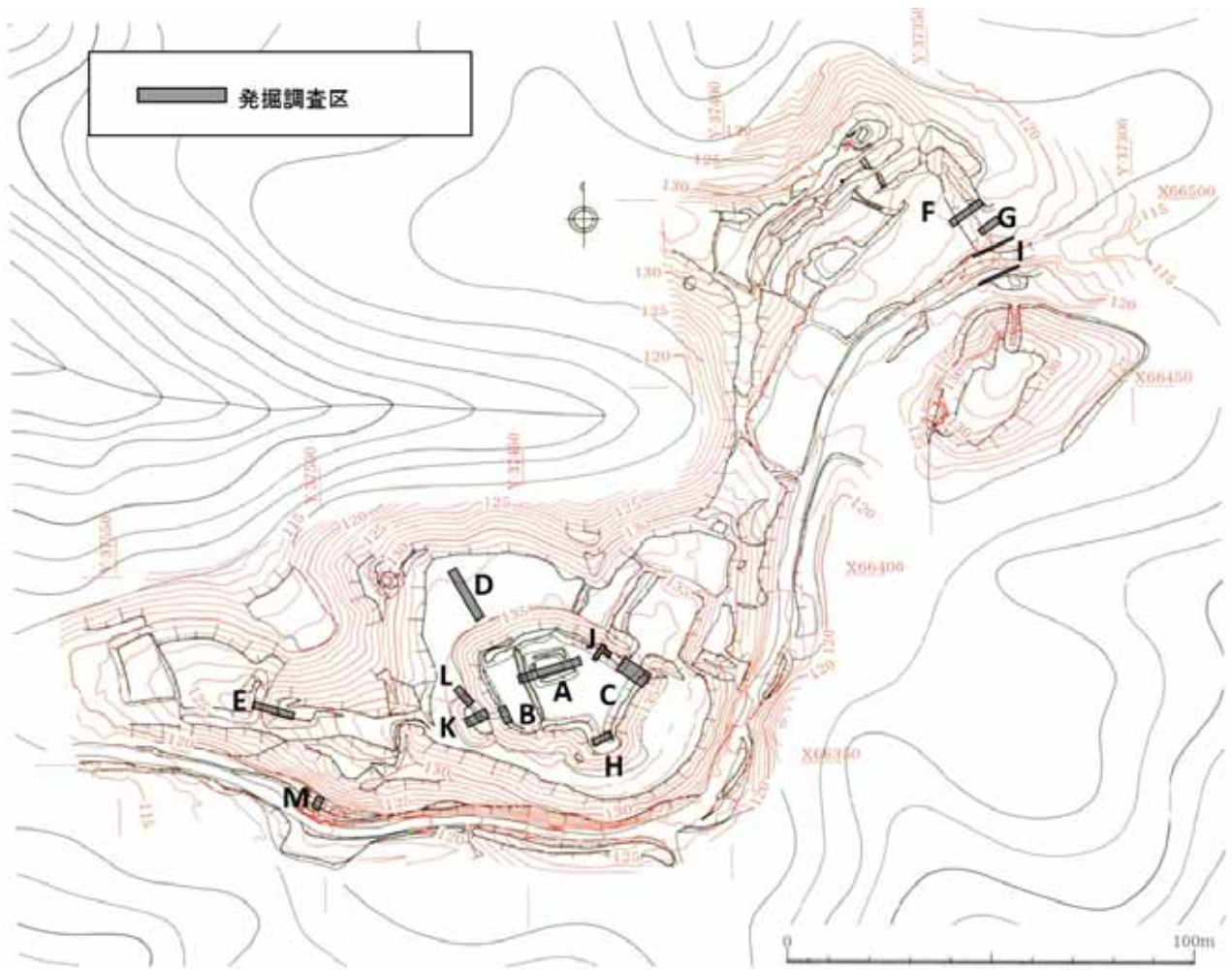


調査区 M 小原越または横堀の堀底溝

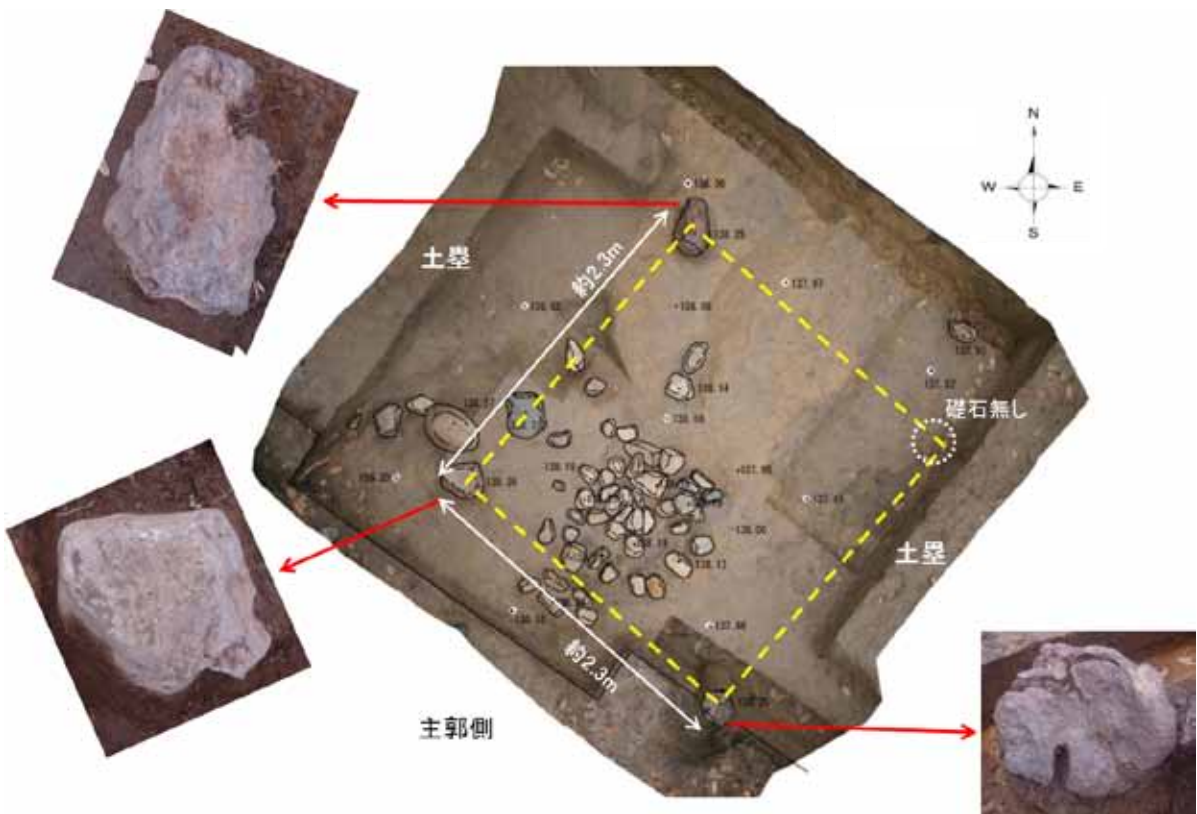


調査区 I 横堀の断面





切山城跡遺構図と発掘調査箇所



調査区Cで検出された礎石建物